

はじめに

結婚する二人に対して周囲が種々の形で祝福することは自然な感情、行為であり、その一つとして、かつては新婚生活で必要となる品物などを贈ることが一般的でしたが、現在ではお祝いとして《現金を贈る》ことが主流となっています。それでも陰陽五行説の影響なのか、ハレの場に現金を包む場合は陽数(奇数)にするべきで、但し9だけは“苦”に通じるから避けるものである等々、さまざまな習俗が色濃く残っているようです。

一方、贈る際の金額の多寡ですが、贈る人と贈られる人との関係によりそれぞれ異なってくるのは当然とはいえ、具体的にはどれ位の金額が相応なのかということが多くの人々の関心になっているのも事実です。また、同じ立場であっても地域によって金額に差があるのだろうか、ということも大きな問題と考えられます。

当協会には、割賦販売法に基づいて経済産業大臣から営業を許可された「冠婚葬祭互助会」事業者約270社が加盟しており、加入者及び各地域の消費者の皆様方より“結婚式”に利用して頂く施設として、北海道から沖縄に至るまで、約600ヶ所の結婚式場、ホテル、チャペルなどを保有し年間に約20万組のカップルをお送りしています。

そこで、当協会では、傘下の結婚式場で行われた結婚式・披露宴のご参列者、ご出席者の皆様方をお願いをして、平成9年度より5年毎に「祝儀」についてのアンケート調査を行うことにしており、このほど第3回目の調査として平成19年度分をまとめることが出来ました。

本調査が皆様方の儀式を取り巻く生活の中においてお役に立てば幸いです。

社団法人全日本冠婚葬祭互助協会
広報委員会

I.調査概要

- (1) 調査目的 国民の儀式生活に関する意識調査、基礎資料の収集
- (2) 調査対象 (社)全互協に加盟する冠婚葬祭互助会が直営する施設で行われた披露宴の出席者
- (3) 調査方法 披露宴会場において、出席者にアンケート票を配布
- (4) 調査期間 平成19年10月1日～平成19年12月31日
- (5) 配布部数 80,000部
- (6) 回答数 3,509件(回収率:4.4%)

配布したアンケート票の内容

『アンケート調査』ご協力をお願い	
私どもは昭和48年、利益を目的としない公益法人として経済産業大臣の認可の基に設立された全国的な組織を持つ団体で各地の冠婚葬祭互助会事業者によって構成されています。 事業内容としては消費者保護体制の整備、加盟業者の指導育成、行政への協力等多岐にわたっておりますが、その一環として「国民の儀式生活に関する基礎資料の収集」を挙げており、今年度は別記のように祝儀等に関するアンケート調査をする事といたしました。 つきましては、ご多忙中のところ勝手なお願いで大変恐縮ですが、別記項目にご回答のうえ、ご協力を賜るよう心からお願い申し上げます。 ※ご回答はアンケート調査以外には使用いたしません ※お手数ですが平成19年12月末日までにご投函下さい なお、ご協力を賜りました調査結果につきましては、集計分析作業が終わり次第、全国各地の消費者センター及び行政の消費者相談窓口やマスコミ諸機関に報告書を送付して発表する予定としています。 平成19年9月 社団法人 全日本冠婚葬祭互助協会 〒105-0001東京都港区虎ノ門3-6-2・第2秋山ビル7F TEL:03-3433-4415(代)	
ネ リ ト リ 線	平成19年度 祝儀等に関するアンケート 該当するところを○印で囲み、空欄には回答をご記入ください。 ①あなたは、新郎のご関係ですか？ 新婦のご関係ですか？ A.新郎 B.新婦 C.両方 ②あなたは、新郎又は新婦の何にあたりますか？ A.兄弟/姉妹 B.おじ/おば C.従兄弟/従姉妹 D.上記以外の親戚 E.職場の上司 F.職場の同僚 G.職場の部下 H.取引先 I.友人 J.その他 ③今回、あなたが贈った「祝儀」はいくらですか？ A. _____ 円 ④あなたは六曜（大安・友引・仏滅など）を気にしていますか？ A.気にする B.あまり気にしない C.全く気にしない ⑤あなたが希望する挙式形態は何ですか？ (既婚者の方も現在の希望をお願い致します。) A.神前式 B.チャペル（キリスト教）式 C.無宗教式 D.その他 ■ご回答頂いた「あなた」についてお尋ねします。 ●性 別 _____ 男性 ・ 女性 ●お 歳 _____ 20代・30代・40代・50代・60代以上 ●結 婚 _____ 既婚/子供あり 既婚/子供なし 未婚 ●お住まいの地区 _____ 都 道 _____ 市 区 _____ 府 県 _____ 町 村 _____ ご協力ありがとうございました。

Ⅱ.調査対象者

冠婚葬祭に伴う儀式は、昔から地域のしきたりや慣習によって他の地域では見られない特色を育みながら受け継がれています。そうした背景から、地域性は、祝儀の決定に大きく関わっていると考えることができます。また、人は人生経験を積み重ねていくとともに、人間関係もより広くより深くなることが考えられますから、日頃のお付き合いや親しさの度合い、年齢なども祝儀の金額を決める重要な要素と言えます。

本調査は、地域や新郎新婦との関係、年齢などの視点から、祝儀の金額を集計することを試んでいます。

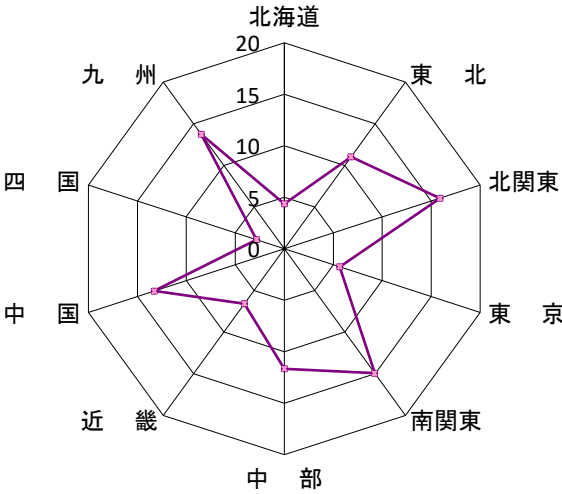
◆回答者の地域別内訳

全国約400の結婚式場にアンケート票を送付し、新郎新婦の許可を得た披露宴会場で出席者にアンケート票を配布したところ、得られた有効回答は3,509件でした。その有効回答を地域別にまとめると、内訳は次のとおりです。この報告書では、アンケートの集計結果から地域性を出せるよう予め10の地域に分けて集計しています。

【単位:件数】										
	北海道ブロック	計	東北ブロック	計	北関東ブロック	計	東京ブロック	計	南関東ブロック	計
都道府県名	北海道	153	青森県	2	茨城県	26	東京都	181	神奈川県	140
			岩手県	2	栃木県	9	山梨県	18	静岡県	384
			宮城県	69	群馬県	107				
			秋田県	53	埼玉県	195				
			山形県	151	千葉県	122				
			福島県	110	新潟県	63				
					長野県	36				
小計		153		387		558		199		524
	中部ブロック	計	近畿ブロック	計	中国ブロック	計	四国ブロック	計	九州ブロック	計
都道府県名	愛知県	159	大阪府	43	鳥取県	45	徳島県	5	福岡県	170
	三重県	130	兵庫県	71	島根県	66	愛媛県	82	佐賀県	39
	岐阜県	35	京都府	48	岡山県	23	香川県	12	長崎県	1
	富山県	2	福井県	13	広島県	270	高知県	0	熊本県	114
	石川県	83	和歌山県	33	山口県	62			大分県	2
			滋賀県	18					宮崎県	9
			奈良県	6					鹿児島県	58
									沖縄県	89
小計		409		232		466		99		482
#										
										3,509

◆地域別の回答割合(%)

地 域	割 合 (%)
北海道	4.4
東 北	11.0
北関東	15.9
東 京	5.7
南関東	14.9
中 部	11.7
近 畿	6.6
中 国	13.3
四 国	2.8
九 州	13.7



◆新郎新婦との関係別回答数

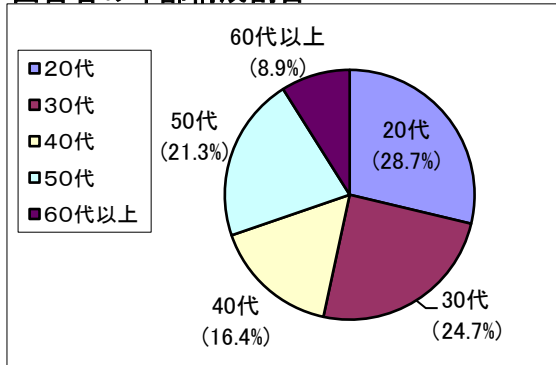
全回答を新郎新婦との関係別にまとめると、回答数は次のとおりです。

新郎新婦との関係	回答数(人)	割 合 (%)	新郎新婦との関係	回答数(人)	割 合 (%)
兄弟姉妹	180	5.1	勤務先の部下	103	2.9
叔父・叔母	638	18.2	取引先関係	34	1.0
従兄弟・従姉妹	235	6.7	友人・その家族	1,270	36.2
その他親戚	144	4.1	その他	211	6.0
勤務先の上司	256	7.3			
勤務先の同僚	438	12.5	合 計	3,509	100.0

◆回答者の年齢構成

回答者の年齢構成を把握するため、アンケート中、年齢に関する設問を設け、各世代別ごとにまとめて集計しています。各世代別の回答数は、次のとおりです。

回答者の年齢構成割合



【単位:人】

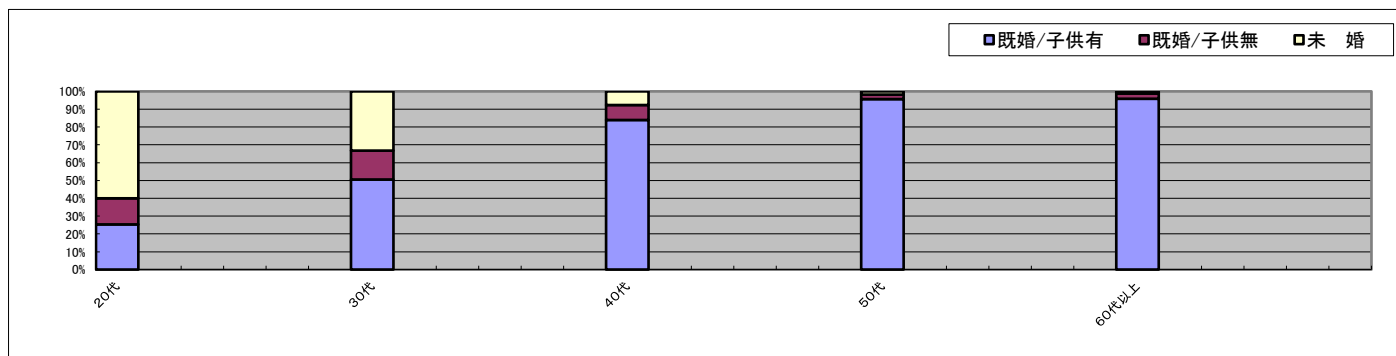
年代	回答数
20代	1,008
30代	865
40代	574
50代	748
60代以上	314
計	3,509

また、世代別に分類した回答を「既婚/子供有」、「既婚/子供無」、「未婚」にまとめると、次のようになります。20代は独身が中心で、30代以降になると既に結婚して子供を持つ方が多くなっています。子供のいない既婚者は30代が最も多く、他の世代では全体の10%未満でした。

【単位:人】

	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
既婚/子供有	256	437	482	715	301	2,191
既婚/子供無	148	140	48	19	9	364
未婚	604	288	44	14	4	954
計	1,008	865	574	748	314	3,509

各世代別の回答者の既婚・未婚割合



◆前回の調査(第2回祝儀に関するアンケート調査)について

1. 調査の概要

- (1) 調査目的 国民の祝儀生活に関する意識調査、基礎資料の収集
- (2) 調査対象 (社)全互協に加盟する互助会が直営する式場で行われた披露宴の出席者
- (3) 調査方法 披露宴会場の受付時にアンケート票を配布
- (4) 調査期間 平成14年10月1日～平成15年3月31日
- (5) 配布部数 60,000部
- (6) 回答数 3,118件(回収率:5.2%)

2. 回答の回収状況

地域別の回答数内訳 【単位:件数】

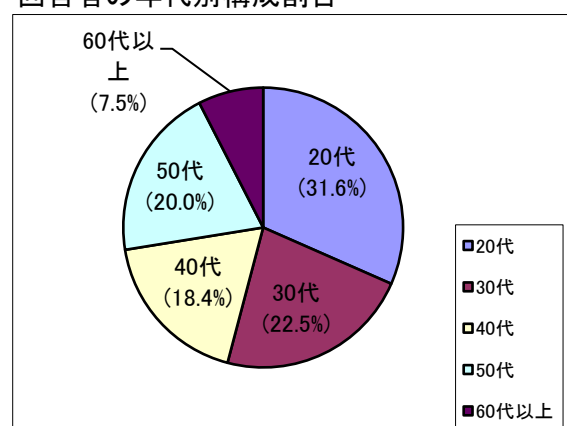
北海道	東北	北関東	東京	南関東	合計
144	389	382	343	359	
中部	近畿	中国	四国	九州	
393	336	236	210	326	3,118

回答者と新郎・新婦との関係

【単位:件数】

新郎新婦との関係	回答数	新郎新婦との関係	回答数
兄弟姉妹	221	勤務先の部下	146
叔父・叔母	518	取引先関係	49
従兄弟・従姉妹	279	友人・その家族	926
その他親戚	169	その他	161
勤務先の上司	206		
勤務先の同僚	443	合計	3,118

回答者の年代別構成割合



Ⅲ. 集計結果

1. 祝儀の平均額と、最多回答額

本調査は、披露宴に出席した方を対象としています。従って、ここで集計される祝儀金額は、お祝い金と披露宴でのお食事代ということになりますから、出席しない場合よりもその分高く算出されます。

右の表は、新郎新婦との関係ごとに祝儀の最多回答額と平均額をもとめたものです。表を見てわかるように、各関係ごとに見ても、兄弟姉妹、叔父叔母の関係に当たる場合を除き、3万円が最も多いようです。

披露宴の1人当たりの料理単価はだいたい1万円から2万円ですから、披露宴に出席した場合、3万円が相場と言うのも頷けます。また、会費制の披露宴であれば、1万円から2万円が相場と考えることが出来るでしょう。

次に勤務先関係の祝儀の平均額を見ると、勤務先の同僚や部下が贈る場合よりも、上司として贈る場合の方が高くなっています。勤務先においては、横の繋がりよりも上下の関係を重視する傾向があるのかもしれませんが。親戚関係は、高額な祝儀を贈るケースもあることから、平均額は全体的に高くなっているようです。

【単位:円】

新郎新婦との関係	最多回答額	平均額
兄弟姉妹	50,000	57,727
叔父・叔母	50,000	70,292
従兄弟・従姉妹	30,000	38,788
その他の親戚	30,000	47,679
勤務先の上司	30,000	35,560
勤務先の同僚	30,000	28,462
勤務先の部下	30,000	31,980
取引先関係	30,000	34,333
友人・その家族	30,000	28,128
その他	30,000	43,579

(1)新郎新婦との関係別の祝儀(回答別割合)

祝儀の金額を決める大切な要素として、新郎新婦との親しさの度合い、お付き合いの深さがあります。新郎新婦との関係ごとに、その回答の構成割合を見ることによって祝儀の最多回答額だけではわからない実態や傾向を見ることが出来ます。

右の表は、平成14年度に実施された前回調査での祝儀の最多回答額と今回の調査により求められた最多回答額を、新郎新婦との関係別にまとめたものです。その結果、最多回答額はほとんど変わりませんでした。

【単位:円】

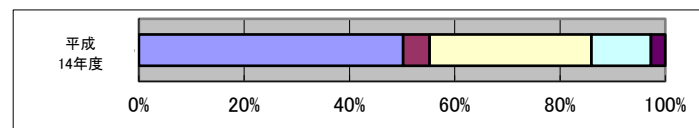
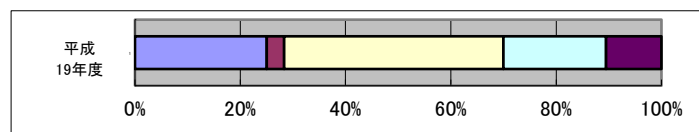
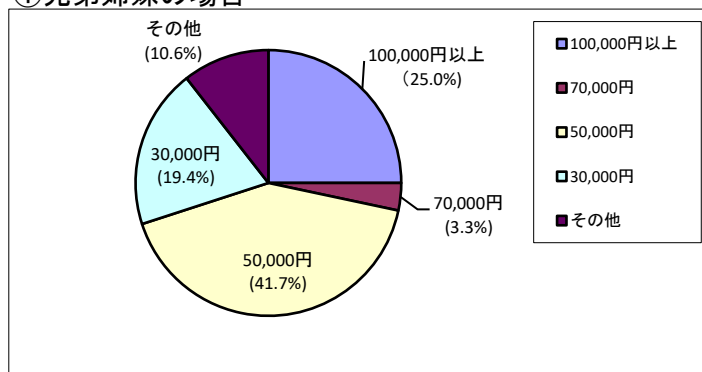
最多回答額の比較	前回調査	今回調査
兄弟姉妹	100,000	50,000
叔父・叔母	50,000	50,000
従兄弟・従姉妹	30,000	30,000
その他の親戚	30,000	30,000
勤務先の上司	30,000	30,000
勤務先の同僚	30,000	30,000
勤務先の部下	30,000	30,000
取引先関係	30,000	30,000
友人・その家族	30,000	30,000
その他	30,000	30,000

ところが、祝儀金額の構成割合を見ると、関係によっては、全体に占める割合に変化が見られます。

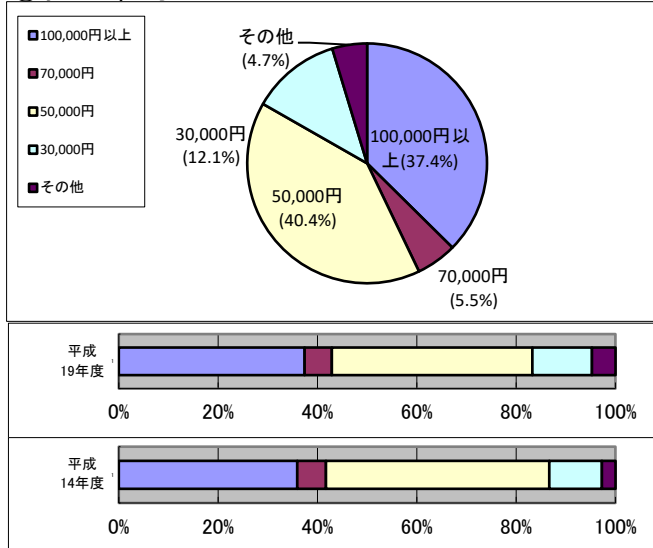
次に挙げる円グラフは、新郎新婦との関係別に贈った祝儀金額の回答割合(%)を表したものです。そして、円グラフの下の方の棒グラフは、平成14年度に実施した前回調査での回答割合(%)と平成19年度に行った今回調査の結果を比較したものです。

例えば、叔父・叔母、従兄弟・従姉妹など親戚関係の回答割合(%)を見ると、最多回答の占める割合は40%から50%台で、最多回答額もそれぞれ違います。今回一番顕著に変化が見られたのは兄弟姉妹の場合です。平成14年度のデータでは最多回答が10万であったのに対し今回のデータは5万となっております。また、前回調査より最多回答の占める割合が減少し、回答にばらつきが出てきました。一方、他の関係では、最多回答額の占める割合が高く、最多回答額の金額も3万円と共通しています。従って、祝儀の相場や傾向を考える上で、親戚関係とそれ以外の勤務先や友人などの関係とは分けて考えた方が良いでしょう。親戚関係では、一律に相場の金額を贈るのではなく、関係の深さが金額を決定する上で、より重要となってきたのかも知れません。

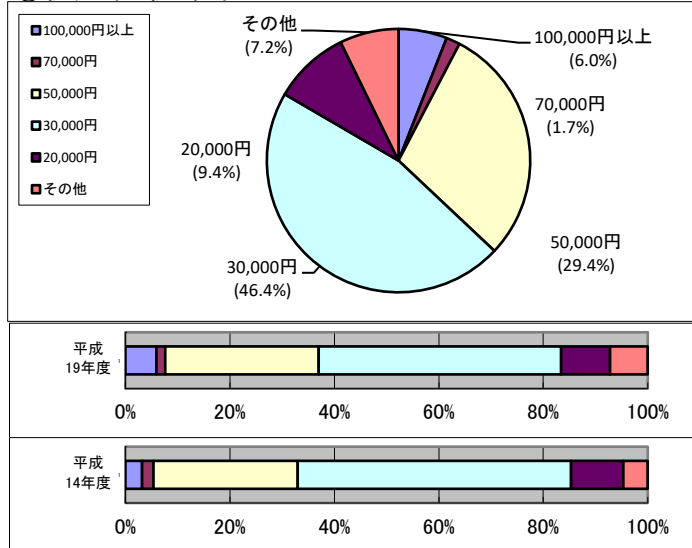
①兄弟姉妹の場合



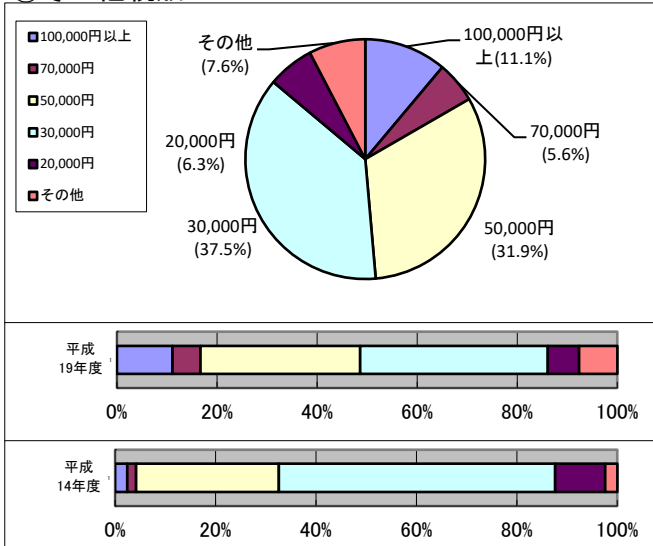
②叔父・祖母



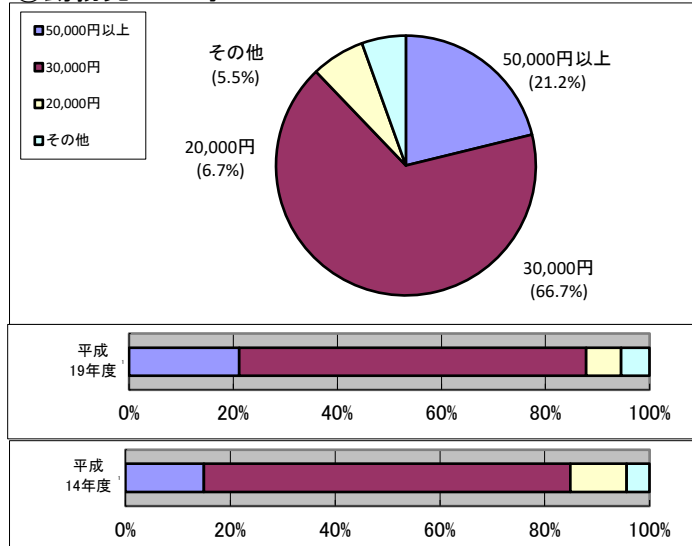
③従兄弟・従姉妹



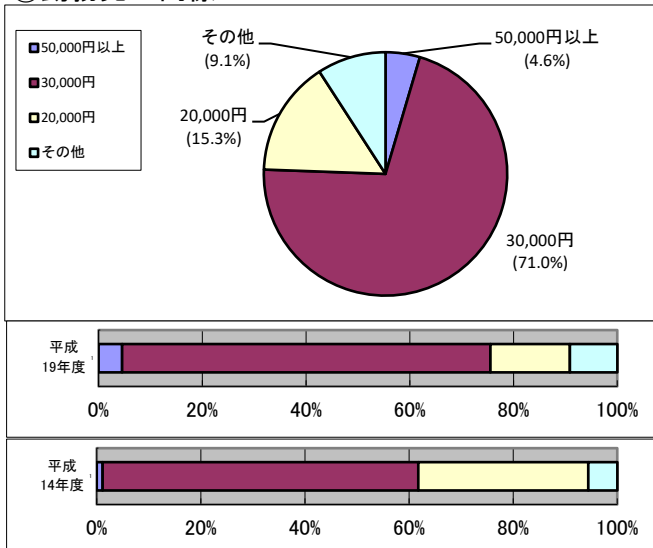
④その他親戚



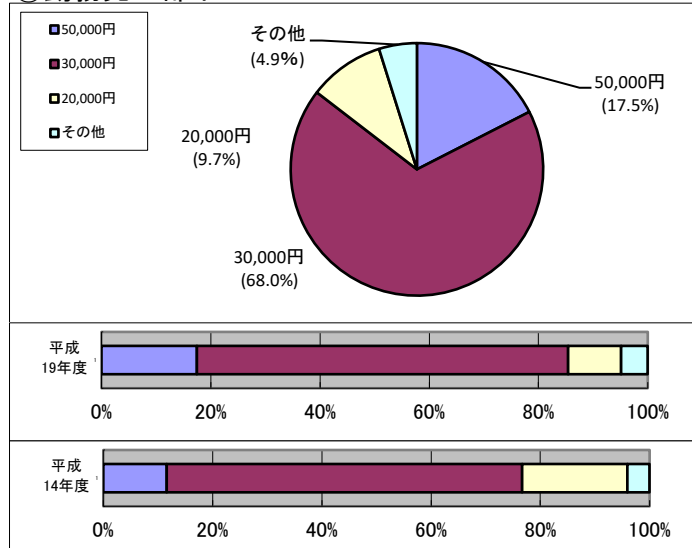
⑤勤務先の上司



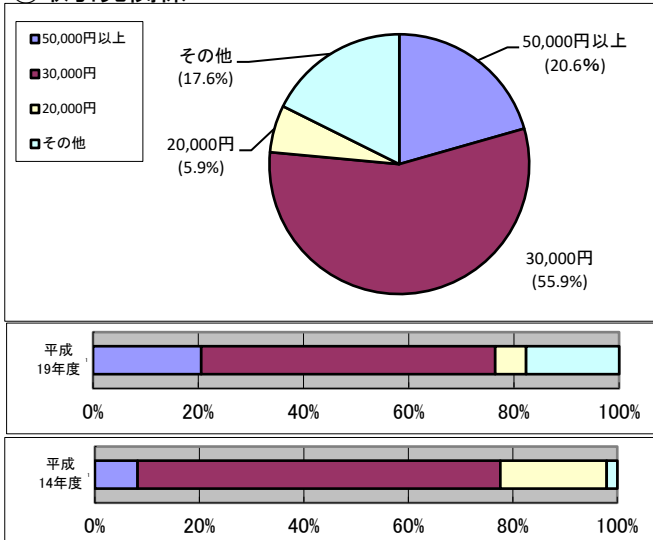
⑥勤務先の同僚



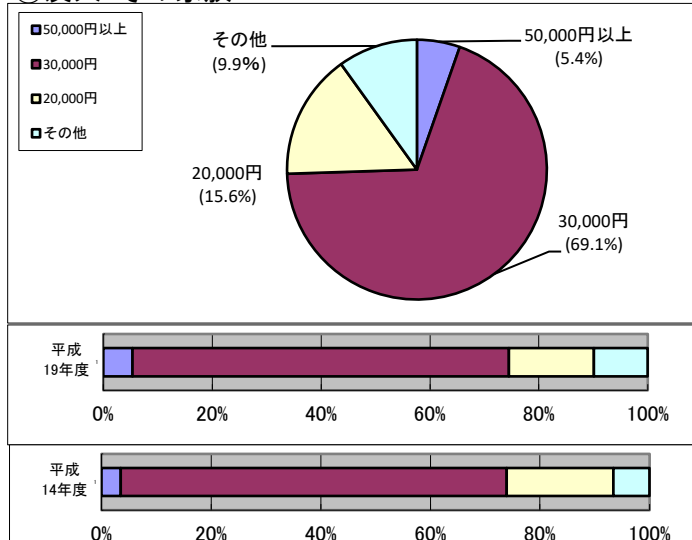
⑦勤務先の部下



⑧取引先関係



⑨友人・その家族



▼ 前回調査との祝儀平均額比較

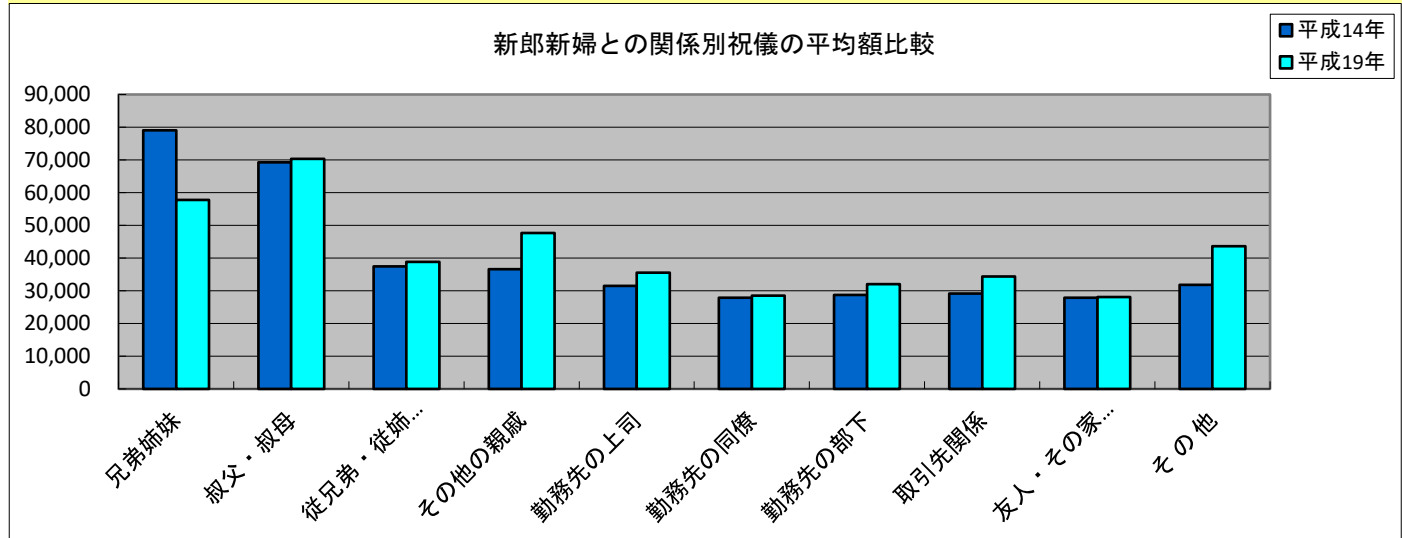
【単位:円】

新郎新婦との関係	平成14年	平成19年
兄弟姉妹	79,050	57,727
叔父・叔母	69,208	70,292
従兄弟・従姉妹	37,473	38,788
その他の親戚	36,568	47,679
勤務先の上司	31,456	35,560
勤務先の同僚	27,876	28,462
勤務先の部下	28,692	31,980
取引先関係	29,184	34,333
友人・その家族	27,892	28,128
その他	31,839	43,579

祝儀の平均金額について、前回の調査(平成14年度実施)と今回の調査(平成19年度実施)を比較すると、左の表及び下のグラフのとおりとなります。

前述の新郎新婦との関係別回答割合を見てわかる通り、祝儀として贈る金額は3万円や5万円などいくつかのパターンに限られていますから、祝儀の平均金額は、新郎新婦との各関係を軸に地域や年代の格差を見たり、過去に実施された調査結果との比較において、上がったか或いは下がったかなど時系列的に見るのに有効でしょう。

今回、平均金額は前回調査と比較して、ほとんどの関係において増加していました。これは、近年の披露宴列席者の減少にもつながりますが、親しい間柄の方しか呼ばない傾向が強まり、その結果として祝儀の平均も増加したと考えられます。



(2)地域別に見た祝儀の最多回答額と平均額

下の表は、地域別に祝儀の最多回答額と平均額をまとめたものです。最多回答額も地域によって異なる場合がありますので、全国集計より正確な目安となるでしょう。

地域別に見ると、前回は中部地域が比較的にどの関係でも高かったのですが、今回のデータでは北海道・四国・九州以外は金額も近づきつつあるようです。また、北海道では、勤務先や友人関係において平均額が低くなっていますが、やはり会費制の披露宴が多いからでしょう。

【単位:円】

	北海道		東北		北関東		東京		南関東	
	最多回答	平均額	最多回答	平均額	最多回答	平均額	最多回答	平均額	最多回答	平均額
兄弟姉妹	50,000	46,667	50,000	63,636	100,000	56,667	100,000	56,667	50,000	49,070
叔父・叔母	30,000	33,636	50,000	60,109	50,000	60,083	50,000	68,537	50,000	67,822
従兄弟・従姉妹	10,000	22,308	30,000	35,870	30,000	40,222	30,000	40,500	30,000	37,885
その他の親戚	10,000	15,714	30,000	30,000	50,000	50,000	50,000	49,444	30,000	44,167
勤務先の上司	10,000	5,000	30,000	29,375	30,000	34,250	30,000	35,455	30,000	45,000
勤務先の同僚	10,000	6,643	20,000	24,185	30,000	29,362	30,000	50,588	30,000	29,583
勤務先の部下	10,000	22,500	30,000	27,222	30,000	31,765	30,000	30,000	30,000	34,583
取引先関係	10,000	10,000	30,000	28,333	30,000	28,000	30,000	30,000	30,000	38,000
友人・その家族	10,000	11,949	20,000	24,216	30,000	30,146	30,000	29,514	30,000	31,600
その他	10,000	33,846	20,000	24,844	30,000	46,585	30,000	52,500	30,000	29,231

【単位:円】

	中部		近畿		中国		四国		九州	
	最多回答	平均額	最多回答	平均額	最多回答	平均額	最多回答	平均額	最多回答	平均額
兄弟姉妹	50,000	53,750	50,000	64,545	50,000	66,286	100,000	76,000	50,000	58,125
叔父・叔母	100,000	86,923	100,000	92,487	100,000	80,417	50,000	85,000	50,000	56,324
従兄弟・従姉妹	30,000	35,625	50,000	47,059	50,000	48,438	30,000	35,714	30,000	33,438
その他の親戚	50,000	57,059	50,000	66,154	30,000	63,333	30,000	52,500	30,000	30,769
勤務先の上司	30,000	32,955	30,000	39,375	30,000	46,250	30,000	28,000	30,000	29,677
勤務先の同僚	30,000	30,727	30,000	30,371	30,000	30,156	30,000	28,333	30,000	26,602
勤務先の部下	30,000	32,857	30,000	34,000	30,000	35,455	50,000	40,000	30,000	28,889
取引先関係	50,000	50,000	※※※※※	※※※※※	50,000	50,000	※※※※※	※※※※※	30,000	30,000
友人・その家族	30,000	30,222	30,000	30,526	30,000	30,694	30,000	28,780	30,000	24,524
その他	30,000	78,571	30,000	28,000	30,000	70,000	30,000	35,625	30,000	34,516

▼ 前回調査との祝儀平均額比較

新郎新婦との関係別に、各地域の祝儀の平均額をまとめると、下の表のとおりとなります。「平成14年」は前回調査での集計結果で、「平成19年」が今回調査の集計結果になります。前回調査では、中部地域がどの関係においても最も高く、今回の調査では、中国・近畿地域が高くなっている傾向が見られます。前回調査と比較して、「勤務先」や「取引先」を見ると、平均額が全国的に上昇していますが、「兄弟姉妹」を見ると、平均額が全国的に減少しています。北海道では、勤務先の関係において平均額が低くなっていますが、やはり会費制の披露宴が多いからでしょう。

【単位:円】										
	兄弟姉妹		叔父・叔母		従兄弟・従姉妹		その他の親戚		勤務先の上司	
	平成14年	平成19年	平成14年	平成19年	平成14年	平成19年	平成14年	平成19年	平成14年	平成19年
北海道	62,667	46,667	58,296	33,636	31,667	22,308	30,912	15,714	24,286	5,000
東北	70,947	63,636	66,321	60,109	32,286	35,870	31,765	30,000	28,273	29,375
北関東	78,484	56,667	68,467	60,083	38,759	40,222	35,620	50,000	32,708	34,250
東京	87,407	56,667	78,481	68,537	39,811	40,500	38,545	49,444	36,867	35,455
南関東	78,333	49,070	66,441	67,822	37,576	37,885	39,375	44,167	33,750	45,000
中部	95,833	53,750	82,949	86,923	44,667	35,625	40,476	57,059	34,818	32,955
近畿	80,455	64,545	79,294	92,487	38,125	47,059	34,148	66,154	31,176	39,375
中国	71,526	66,286	60,952	80,417	34,688	48,438	33,750	63,333	31,250	46,250
四国	69,750	76,000	59,286	85,000	33,478	35,714	33,571	52,500	28,571	28,000
九州	87,619	58,125	67,941	56,324	35,862	33,438	35,833	30,769	28,077	29,677

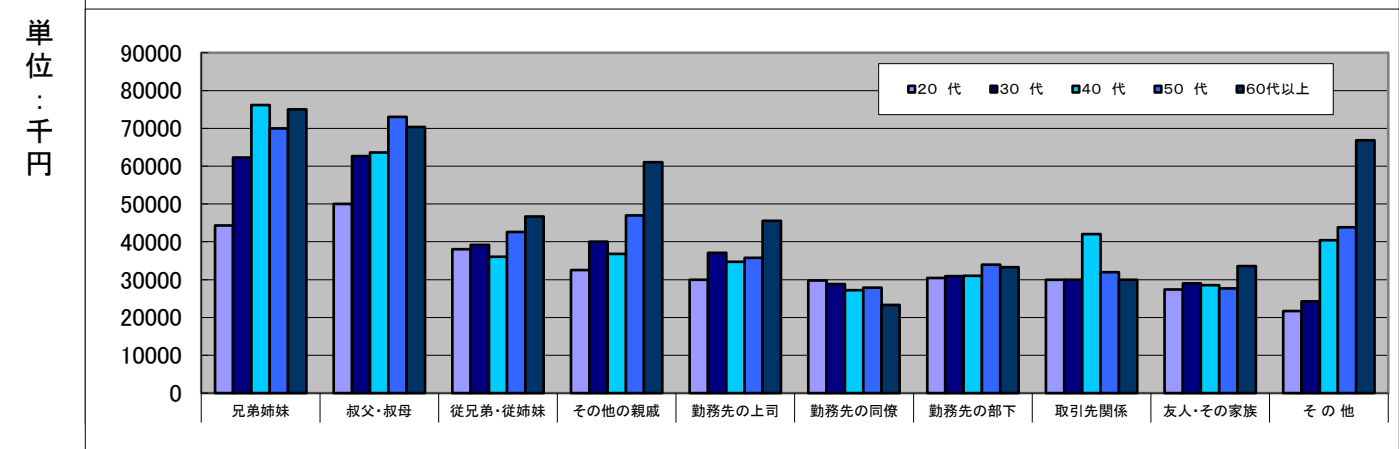
【単位:円】										
	勤務先の同僚		勤務先の部下		取引先関係		友人・その家族		その他	
	平成14年	平成19年	平成14年	平成19年	平成14年	平成19年	平成14年	平成19年	平成14年	平成19年
北海道	20,857	6,643	19,222	22,500	※※※※※	10,000	23,156	11,949	17,385	33,846
東北	25,417	24,185	24,402	27,222	31,667	28,333	26,247	24,216	20,079	24,844
北関東	27,341	29,362	28,889	31,765	27,778	28,000	28,750	30,146	30,100	46,585
東京	29,396	50,588	30,571	30,000	30,750	30,000	30,100	29,514	29,167	52,500
南関東	28,824	29,583	30,889	34,583	29,122	38,000	29,421	31,600	30,055	29,231
中部	31,909	30,727	31,333	32,857	38,011	50,000	31,818	30,222	34,688	78,571
近畿	28,444	30,371	30,176	34,000	27,011	※※※※※	29,525	30,526	25,667	28,000
中国	27,931	30,156	26,455	35,455	30,009	50,000	28,145	30,694	21,111	70,000
四国	27,500	28,333	25,273	40,000	28,240	※※※※※	27,421	28,780	20,909	35,625
九州	27,778	26,602	25,221	28,889	25,111	30,000	28,953	24,524	24,444	34,516

注) 上記表中、「※※※※※」は、該当するサンプルが得られなかったため、集計していません。

(3)世代別に見た祝儀の最多回答額と平均額

下記の表は、各世代、新郎新婦との各関係別に祝儀の平均額と最多回答額を集計したものです。平均額を見る限り、年齢が高くなると祝儀も高くなる傾向にあるようですが、「勤務先の同僚」については逆に祝儀が低くなる傾向があります。但し、取引先については、各世代ともあまり変わっていません。おそらく、その時の立場や責任といった要因が大きく、年齢には影響ないということでしょう。

【単位:円】										
	20代		30代		40代		50代		60代以上	
	最多回答	平均額	最多回答	平均額	最多回答	平均額	最多回答	平均額	最多回答	平均額
兄弟姉妹	50,000	44,306	50,000	62,308	100,000	76,207	100,000	70,000	100,000	75,000
叔父・叔母	50,000	50,000	50,000	62,667	50,000	63,627	100,000	73,028	50,000	70,374
従兄弟・従姉妹	30,000	38,019	30,000	39,176	30,000	36,091	30,000	42,571	20,000	46,667
その他の親戚	30,000	32,500	50,000	40,000	30,000	36,786	30,000	46,977	50,000	61,023
勤務先の上司	30,000	30,000	30,000	37,105	30,000	34,759	30,000	35,769	50,000	45,556
勤務先の同僚	30,000	29,797	30,000	28,796	30,000	27,174	30,000	27,917	30,000	23,308
勤務先の部下	30,000	30,435	30,000	30,952	30,000	31,053	30,000	34,000	30,000	33,333
取引先関係	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	42,000	30,000	32,000	30,000	30,000
友人・その家族	30,000	27,408	30,000	29,057	30,000	28,509	30,000	27,724	30,000	33,571
その他	30,000	21,667	30,000	24,286	30,000	40,455	30,000	43,837	30,000	66,857



▼ 前回調査との祝儀平均額比較

前回調査に比べ、平均額が全体的に上がっている中、「兄弟姉妹」の関係については、年代に関わらず下がっている傾向が見られました。

20代は、「友人・その家族」、「勤務先」、「取引先」の関係では、3万円前後を出す人が多いと考えられます。ところが、30代以降になると、関係によって祝儀の金額が異なり、特に親戚関係が高くなっているようです。

更に勤務先の関係では、勤務先の同僚や部下であった場合よりも、上司の方が高くなっています。最多回答額では、同じ額なのに平均額に違いがあるのは、自分が上司という立場で出席した場合、ちょっと奮発してる方も、いるかも知れません。

【単位：円】

	20 代		30 代		40 代		50 代		60代以上	
	平成14年	平成19年	平成14年	平成19年	平成14年	平成19年	平成14年	平成19年	平成14年	平成19年
兄弟姉妹	60,482	44,306	83,418	62,308	98,500	76,207	※※※※※	70,000	※※※※※	75,000
叔父・叔母	※※※※※	50,000	56,190	62,667	67,788	63,627	70,187	73,028	78,162	70,374
従兄弟・従姉妹	29,309	38,019	36,172	39,176	39,398	36,091	46,667	42,571	47,813	46,667
その他の親戚	28,212	32,500	32,941	40,000	33,235	36,786	38,367	46,977	44,737	61,023
勤務先の上司	27,333	30,000	31,042	37,105	31,087	34,759	34,592	35,769	33,438	45,556
勤務先の同僚	24,056	29,797	24,957	28,796	26,268	27,174	26,042	27,917	※※※※※	23,308
勤務先の部下	24,828	30,435	29,394	30,952	30,769	31,053	32,262	34,000	※※※※※	33,333
取引先関係	※※※※※	30,000	28,750	30,000	28,889	42,000	30,833	32,000	31,667	30,000
友人・その家族	27,301	27,408	27,996	29,057	28,211	28,509	31,673	27,724	31,111	33,571
その他	26,195	21,667	32,105	24,286	32,290	40,455	37,500	43,837	36,667	66,857

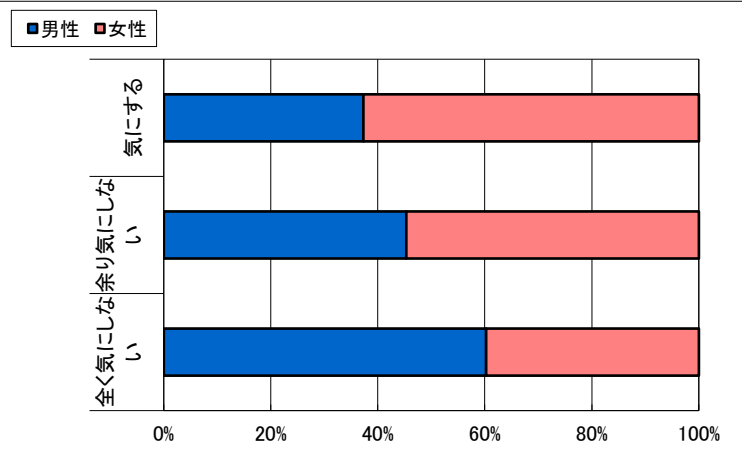
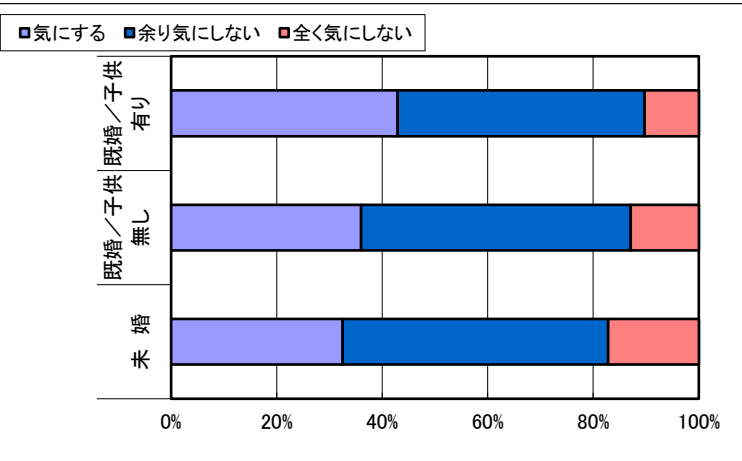
注) 上記表中、「※※※※※」は、該当するサンプルが得られなかったため、集計していません。

2. あなたは六輝を気にしていますか？

六輝は、古代中国の陰陽五行説に基づく6つの日のことで、吉凶を定める基準と言われてます。今でも、よくカレンダーに「先勝、友引、先負、仏滅、大安、赤口」といった六輝が表記され、冠婚葬祭の日取りを決める際、参考にしたりします。そこで、現在どれくらいの人々が六輝を意識しているのかを調べるため、今回の調査で新たに調査項目として六輝に関する設問を設けました。

【単位：人】

	既婚／子供有り	既婚／子供無し	未婚
気にする	941	131	310
余り気にしない	1,026	186	480
全く気にしない	224	47	164



集計の結果、「気にする」と答えた人が全体の39.4%、「余り気にしない」と答えた人が48.2%、「全く気にしない」と答えた人が12.4%でした。

「気にしない」と「余り気にしない」を合わせると、60.5%の人が六輝を気にしていないという結果になりました。

既婚者と未婚者を比較すると、左のグラフのとおり、既婚者の方が気にする人が多いようです。

逆に未婚者になると、67.5%の人が気にならないようです。

男女別には左のグラフのとおりです。「気にする」は男性が37.3%で、女性が62.7%でした。

「余り気にしない」は、男性が45.3%、女性が54.7%、「全く気にしない」は、男性が60.2%、女性が39.8%でした。

以上のことから、女性の方が六輝を気にかけてる人が多く、男性は無関心？ということが考えられます。

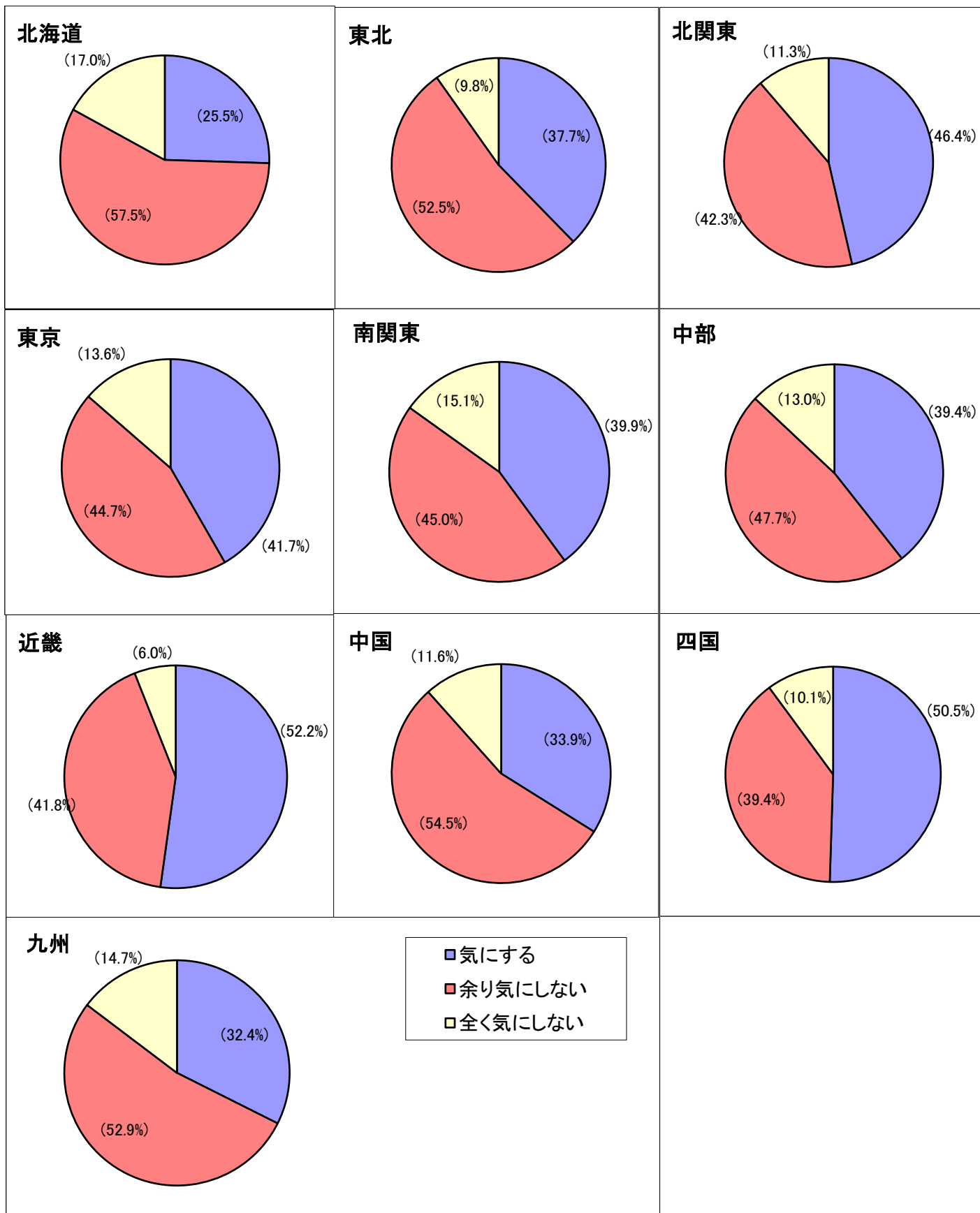
(1)地域別回答と回答割合(%)

次に地域別に回答数及びその割合(%)をまとめると、次項の表のようになります。最も「気にする」が多かったのは、近畿地域でした。「全く気にしない」も6.0%と他の地域と比べて低いのも、この地域の特徴といえます。

また、「気にする」が低かったのは、北海道でした。

但し、いずれの地域も「余り気にしない」が約40%～50%台と六輝に対して曖昧な意識の人が多くことから、今後、「気にする」、「気にしない」のどちらに傾倒するのか興味深いところでしょう。近畿、四国も「気にする」が50%台と高いので、比較的六輝が定着していると言えるでしょう。

	気にする		余り気にしない		全く気にしない	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
北海道	39	25.5	88	57.5	26	17.0
東北	146	37.7	203	52.5	38	9.8
北関東	259	46.4	236	42.3	63	11.3
東京	83	41.7	89	44.7	27	13.6
南関東	209	39.9	236	45.0	79	15.1
中部	161	39.4	195	47.7	53	13.0
近畿	121	52.2	97	41.8	14	6.0
中国	158	33.9	254	54.5	54	11.6
四国	50	50.5	39	39.4	10	10.1
九州	156	32.4	255	52.9	71	14.7

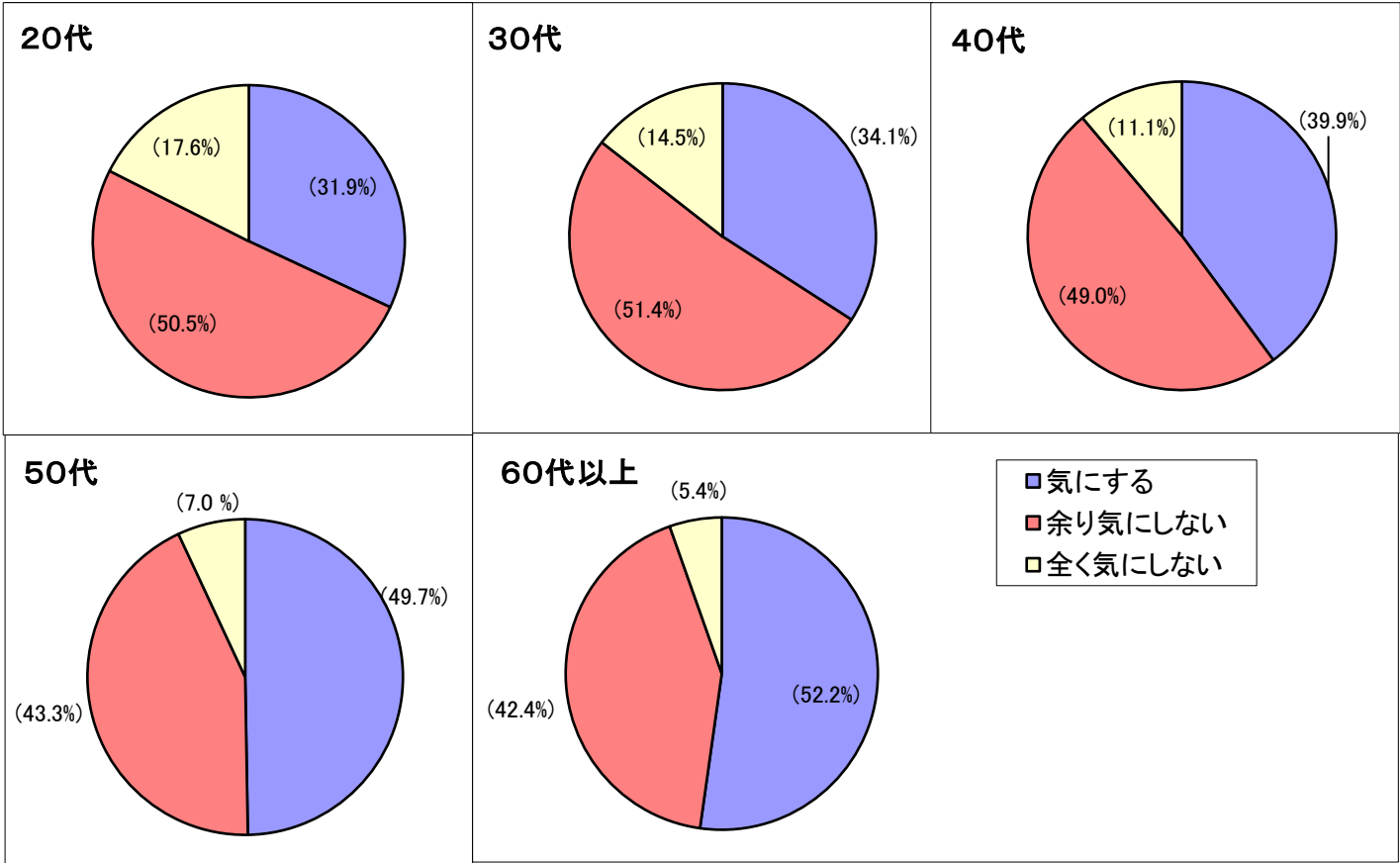


(2)世代別回答と回答割合(%)

回答を世代別に分けて収益すると右の表のとおりとなります。
一般的に結婚して新郎新婦となるのは、大体20代～30代が中心でしょう。そう考えると、50代～60代が親の世代ということになります。

	気にする		余り気にしない		全く気にしない	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
20代	322	31.9	509	50.5	177	17.6
30代	295	34.1	445	51.4	125	14.5
40代	229	39.9	281	49.0	64	11.1
50代	372	49.7	324	43.3	52	7.0
60代以上	164	52.2	133	42.4	17	5.4

下のグラフで各世代の回答割合を見ると、20代と30代、50代と60代で、それぞれ傾向が似ているのがわかります。そして、いわゆる、親の世代(50代と60代)と子の世代(20代と30代)で意識の違いがはっきりと出ているところが興味深いところです。

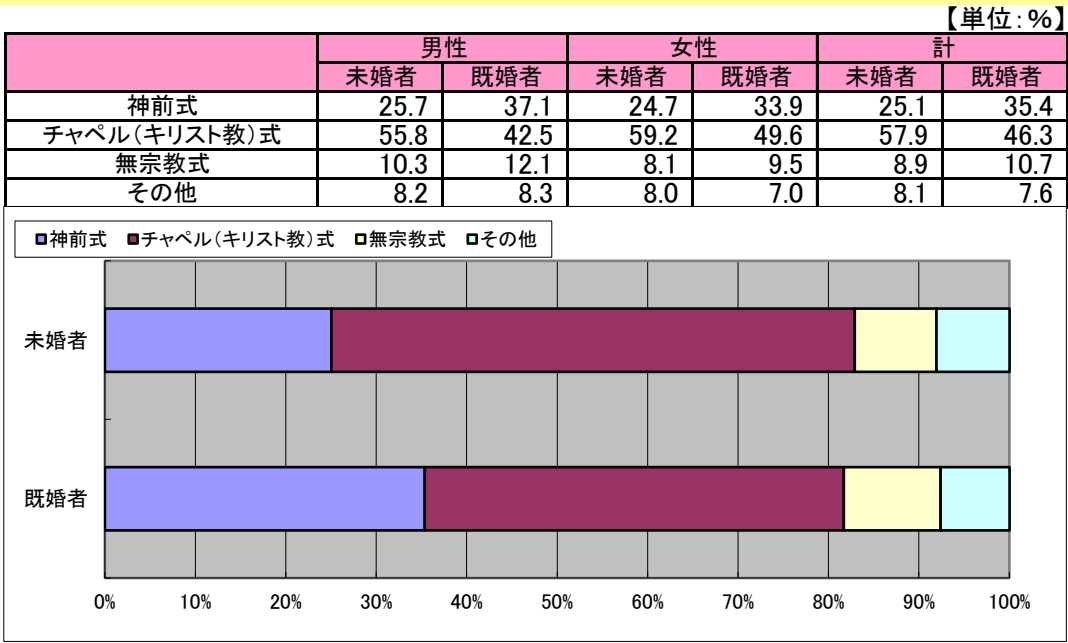


3. あなたが希望する挙式形態は？

挙式形態における趣向の変遷は、ブライダルの流れやトレンドを見るうえで大切な要素と考えられます。本調査では、披露宴に出席した者を対象に行ったものですので、未婚者に限らず既婚者にもご回答頂きました。従って、本調査では、年齢を見ても20代～60代以上まで幅広く、未婚者の場合は挙式をするとした時の希望挙式形態、既婚者の場合は自分の子供に望む挙式形態又は参列者として出てみたい挙式形態ということになると考えられます。

従って、本調査項目では、既婚者未婚者の区別を集計のKEYとして必ず別々に集計するものとします。

右上の表を見てわかるように、未婚者と既婚者では、希望する挙式形態が明らかに異なるのがわかります。また、前回調査に比べ、未婚者の神前式希望割合(前回調査:19.8%)が増えているところが興味深いところです。



(1)地域別回答割合(%)

地域別に回答を見ると、未婚者の場合、北海道と南関東ではチャペル式が70%を超えており、四国もほぼ70%という高い数字となっています。

一方、九州ではわずかですが神前式がチャペル式を上回っています。

前回調査では、未婚者の神前式の割合が10%台であった東北・北関東・東京・近畿が全て20%台と増加していることが興味深いところです。

一方、既婚者を見ると、北海道・南関東・四国と未婚者においてチャペル式が高かった地域も他の地域と比べてそれほど差がない結果となっています。九州については神前式がチャペル式を完全に上回っています。また、それ以外の地域でも、北海道を除いて神前式の割合が30%台となっています。

また、無宗教式・その他については関東地域では割合が少々高くなっていますが、近畿では極端に少なくなっているところが特徴的です。

未婚者の回答割合(%)

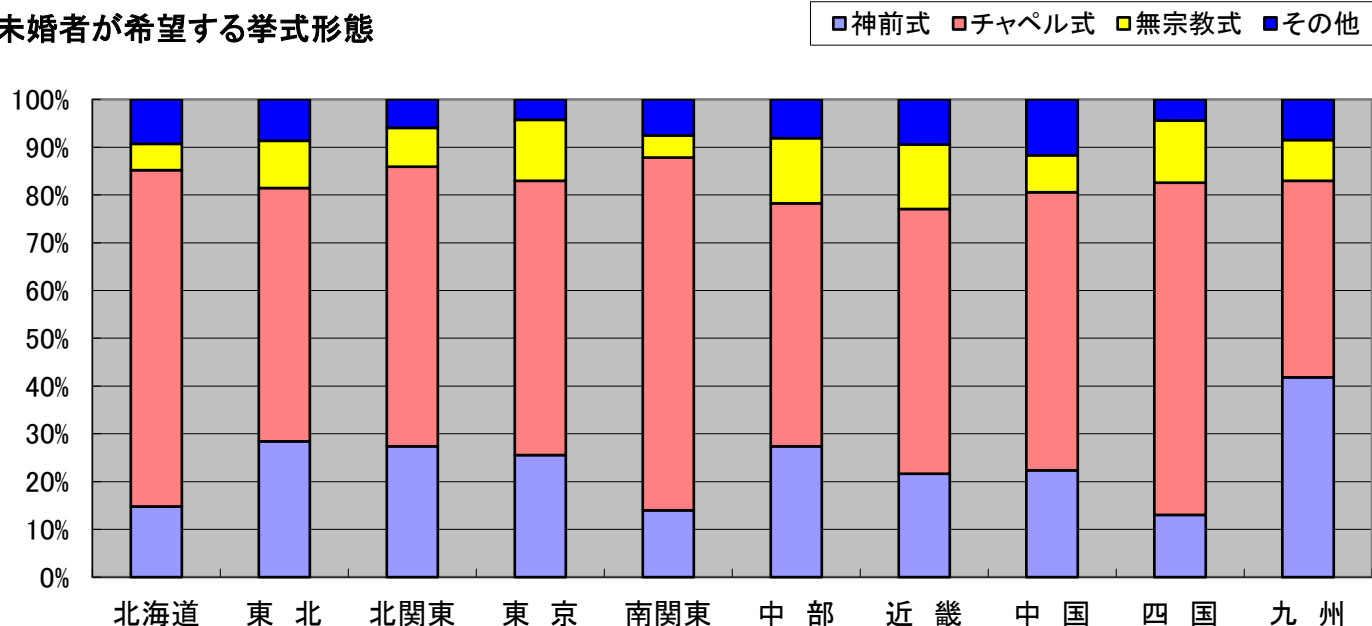
	神前式	チャペル式	無宗教式	その他
北海道	14.8	70.4	5.5	9.3
東北	28.4	53.1	9.9	8.6
北関東	27.4	58.5	8.2	5.9
東京	25.5	57.4	12.8	4.3
南関東	14.0	73.8	4.6	7.6
中部	27.4	50.8	13.7	8.1
近畿	21.6	55.4	13.5	9.5
中国	22.3	58.2	7.8	11.7
四国	13.0	69.6	13.0	4.4
九州	41.8	41.2	8.5	8.5

既婚者の回答割合(%)

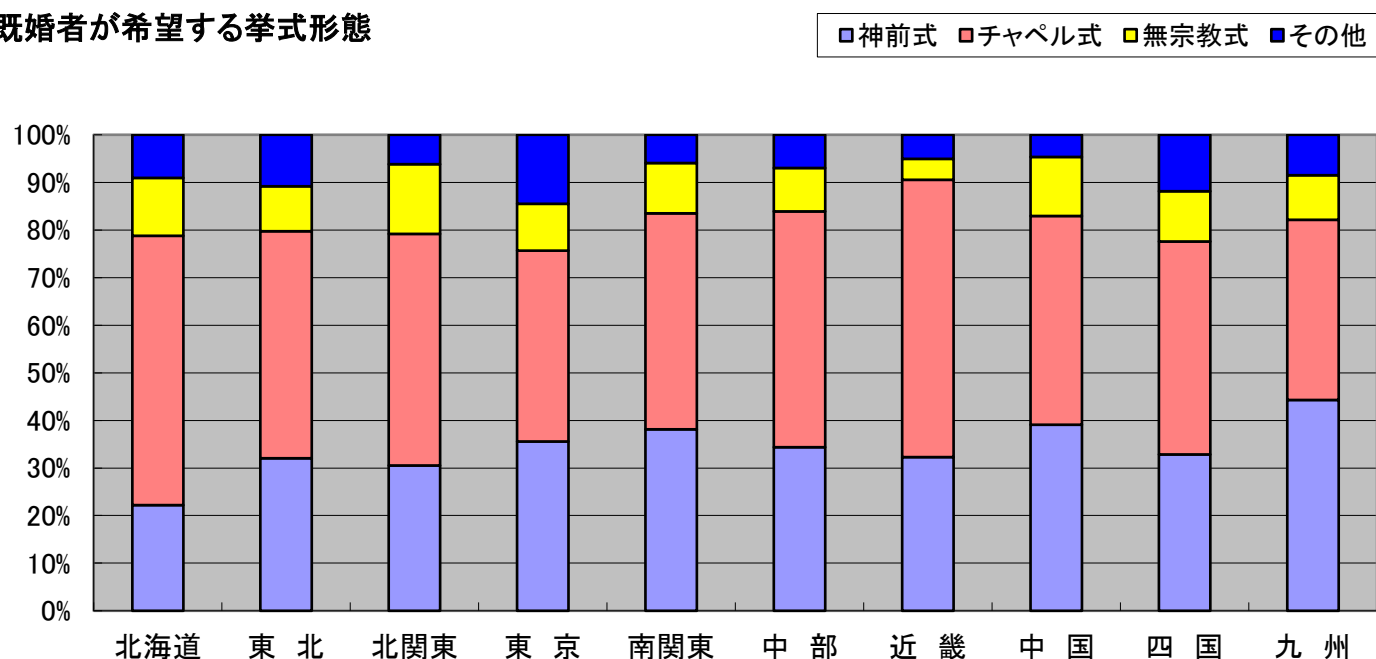
	神前式	チャペル式	無宗教式	その他
北海道	22.2	56.6	12.1	9.1
東北	32.0	47.7	9.5	10.8
北関東	30.5	48.7	14.7	6.1
東京	35.5	40.1	9.9	14.5
南関東	38.1	45.4	10.5	6.0
中部	34.4	49.5	9.1	7.0
近畿	32.3	58.2	4.4	5.1
中国	39.1	43.8	12.4	4.7
四国	32.9	44.7	10.6	11.8
九州	44.3	37.8	9.4	8.5

未婚者に比べ、既婚者の回答は特定の挙式形態に傾倒していない傾向だと言えるでしょう。北海道・近畿がチャペル式で50%台ではありますが、それ以外の地域では大きな開きとはなっていません。

未婚者が希望する挙式形態



既婚者が希望する挙式形態



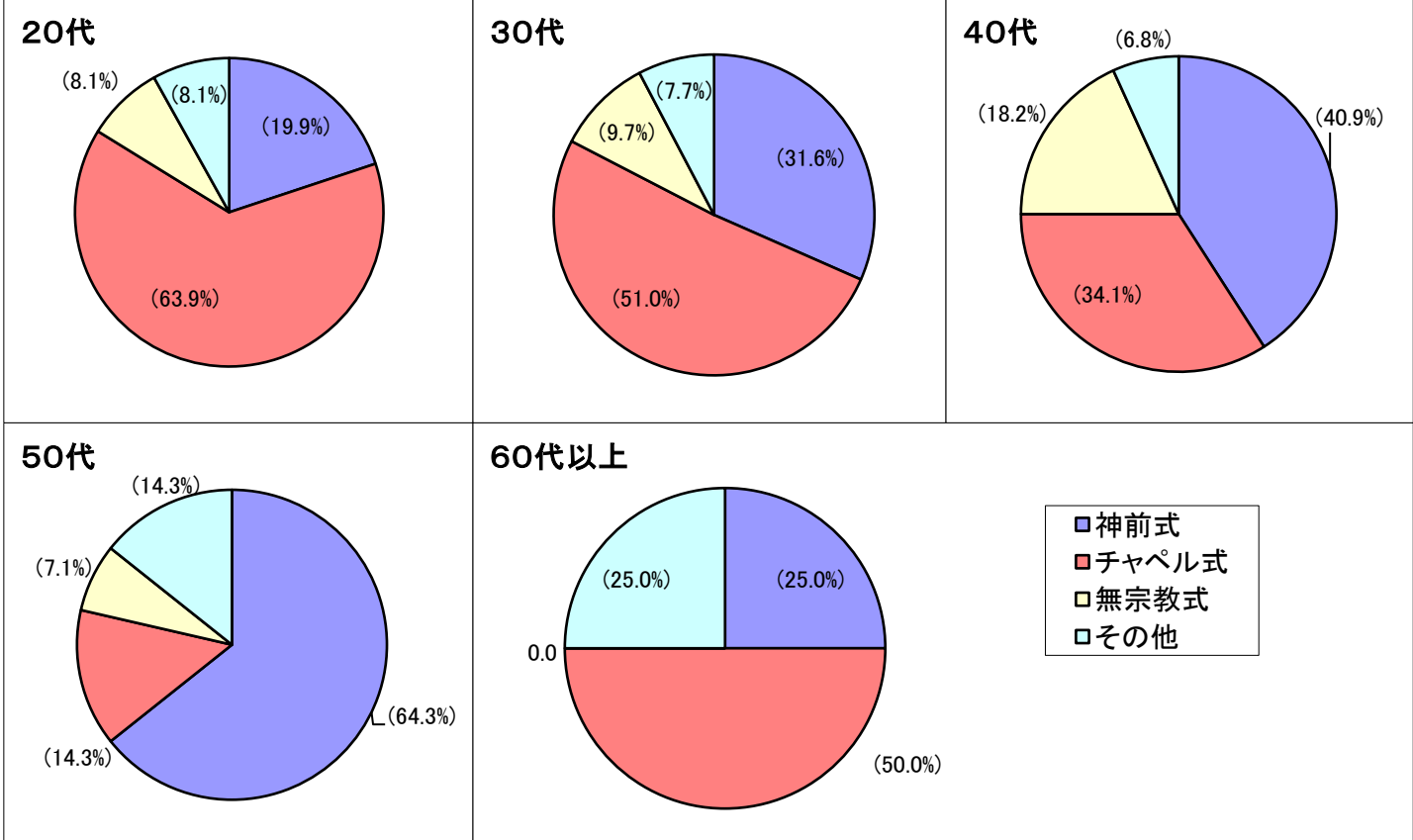
(2)世代別回答割合(%)

右下の表は、未婚者の回答を各世代ごとにまとめ、その割合(%)を一覧にしたものです。20代の未婚者が望む挙式形態を見ると、神前式を希望する未婚者は19.9%、無宗教式は8.1%、その他が8.1%であったのに対し、チャペル式は63.9%と大きく上回っており、ほかを圧倒しています。

未婚者の場合、チャペル式を希望する人が最も多いのは各世代とも共通ですが、40代ではチャペル式34.1%に対し神前式が40.9%と、20代、30代に対し逆転しています。また、60代についてはサンプル数が少なかったため、有効なデータとはなっていないようです。

	神前式	チャペル式	無宗教式	その他
20代	19.9	63.9	8.1	8.1
30代	31.6	51.0	9.7	7.7
40代	40.9	34.1	18.2	6.8
50代	64.3	14.3	7.1	14.3
60代以上	25.0	50.0	※※※※※	25.0

※)上記表中、「※※※※※」は、該当するサンプルが得られなかったため、集計していません

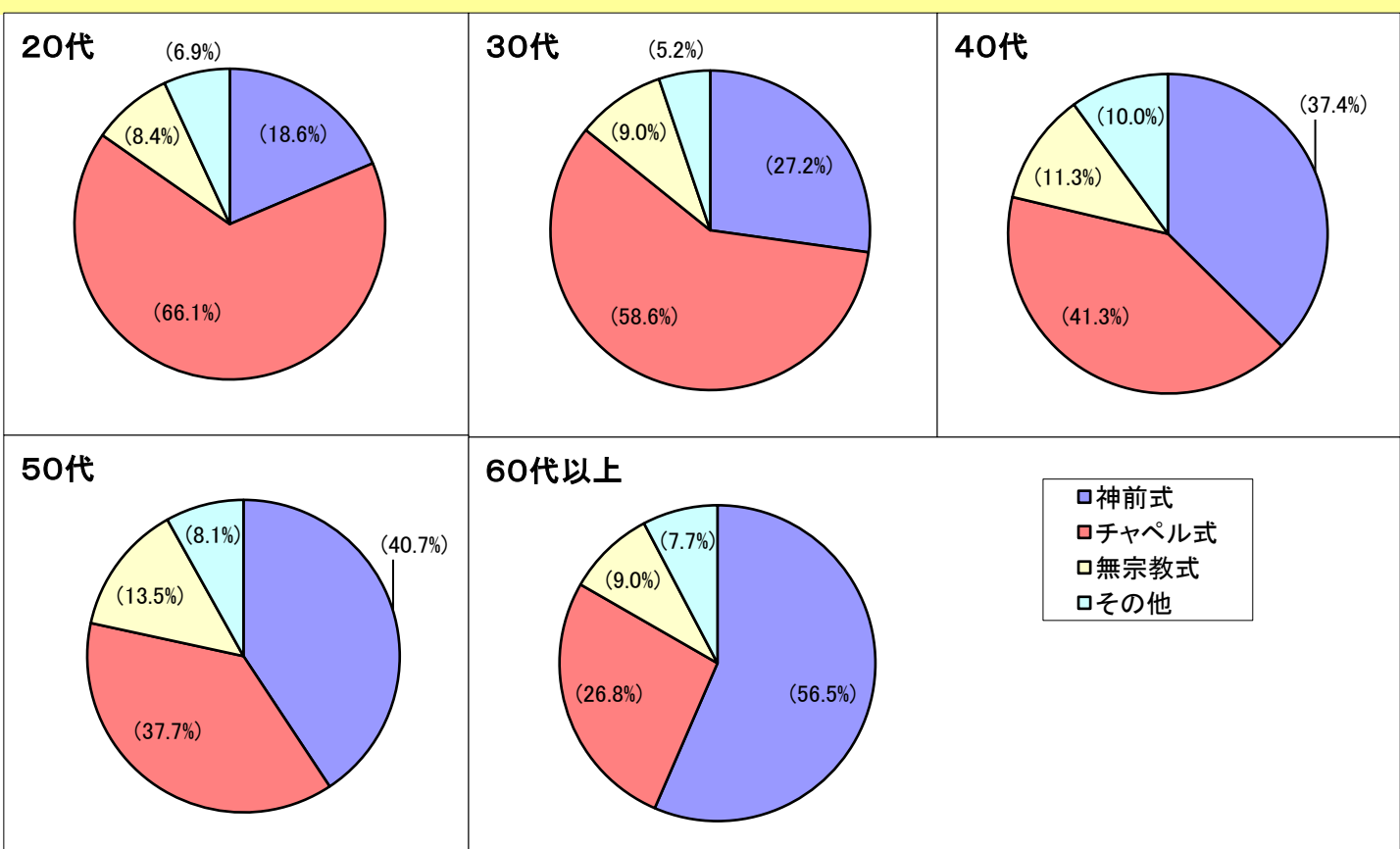


右の表は、既婚者の回答を各世代ごとにまとめ、その割合(%)を一覧にしたものです。

傾向的には、20代と30代では、未婚者の場合とそれほど変わりありません。40代では挙式形態に分散傾向がみられ、神前式とチャペル式の数字が近づいています。

	神前式	チャペル式	無宗教式	その他
20代	18.6	66.1	8.4	6.9
30代	27.2	58.6	9.0	5.2
40代	37.4	41.3	11.3	10.0
50代	40.7	37.7	13.5	8.1
60代以上	56.5	26.8	9.0	7.7

また、既婚者は、当然ながら既にいずれかの挙式形態で式を挙げた経験があるわけですから、それを踏まえての回答ということになります。表を見る限り、若い世代ほどチャペル式を希望し、年を重ねるごとに神前式を希望が集中する傾向にあるようですが、どのような要因があってそうなるのか興味深いところです。



平成19年度
祝儀に関するアンケート調査
平成20年7月15日 発行

社団法人全日本冠婚葬祭互助協会・広報・渉外委員会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-6-2 第2秋山ビル7F
電話 03-3433-4415
<http://www.zengokyo.or.jp/>
kankonsousai@zengokyo.or.jp